

救急科ホットラインの使用にあたってのお願い

当院では、2017年より、医療機関専用のホットラインである「救急科ホットライン」の運用を開始しております。

「救急科ホットライン」は、診療科目にかかわらず**緊急性の高い患者さん**の診療を円滑に行うためのもので、救急科医師が直接対応する電話番号となります。「救急科ホットライン」の円滑な運用のため下記の点についてご留意いただきますようお願い致します。

1. ホットラインへのお電話の際は、医師どうしでの会話が必要となるため、必ず医師からお電話をおかけください。また、呼吸回数を含むバイタルサインや患者状態を伺いますので、情報提供くださるようお願いいたします。
2. 診療情報提供書の宛先は、「**救急科**」でお願い致します。
3. 診療情報提供書は、基本的に患者搬送の際に持たせていただければ結構ですが、時間的に可能であれば事前にFAXで情報をいただけますとなお有り難いです。
4. 具体的なホットライン対応例として以下を例示させていただきます
 - ・ショック(目安として収縮期血圧90mmHg以下で頻脈、顔面蒼白、冷汗など)
 - ・呼吸不全(目安としてSPO2:90%以下で頻呼吸、呼吸困難感など)
 - ・心肺停止
 - ・高エネルギー外傷
 - ・多発外傷
 - ・重症敗血症の疑い
 - ・多臓器不全
 - ・急性薬物中毒
 - ・急性腹症
 - ・広範囲熱傷
 - ・複数の診療科にまたがった疾患の患者や診療科が特定できない患者
 - ・バイタルサインが保たれているが、緊急度が高いと判断した患者(急性大動脈解離の疑いなど)
5. 診療科の指定がある場合や、バイタルサインが保たれており緊急度が高くない場合は、地域医療連携を通して各診療科へお願いいたします。ただし、休日・夜間(16:30~8:00)の緊急性の高い患者はホットラインへご連絡いただいても結構です。各診療科の医師と連携して対応致します。
6. 平日日中(8:00~16:30)各診療科で対応する主な例
 - ⇒緊急の場合は、連携室を通して各診療科の医師と直接電話をおつなぎします
 - ・心筋梗塞(ショック状態の場合はホットライン) ⇒循環器科担当医
 - ・重症肺炎(呼吸不全状態の場合はホットライン) ⇒呼吸器内科担当医
 - ・脳卒中 ⇒神経内科または脳神経外科担当医
 - ・専門科の緊急手術が必要な場合 ⇒手術を担当する診療科の担当医

など